

幼稚園の手技 (四)

及川ふみ

先月號に幼稚園の手技は、種々の保育項目を切りはなすことの出來ない密接な關係のある事を述べた。さくに季節のこともあつたので觀察を手技のことについて取り立て、かきつらねたのであるが、この外に手技は唱歌、お話なども、觀察同様に相連關して出來るものである。例へば教

つた唱歌の一部分を自由畫として發表させて畫き、或はお話を材料として、そのお話の筋の一部分を製作する事も出来る。「幼兒の教育」四月號に幼兒の自由畫としての由にも記しておいたがお話「因幡の兎」を自由畫の題材としてか、せたもの、唱歌「小鳥のお話」を題材として畫させた自由畫なども興味のあるものである。

これ等の自由畫は幼兒たちが聞いたお話のうちから特に印象に強く残つた場面である事もあり、又自分の力相應に發表出來得る場面をあらはす時もあり、又最も興味の強かつた部分である事もある。

お話や、唱歌の内容を自由畫として畫きあらはすだけでなく、更にこれを製作物として作ることもある。例へば猿

蟹合戦のお話の一部を立繪にすることなどは、自由畫として猿や蟹その他種々のものを畫き、これを切り取り、糊ではり合せて、この童話の一場面をあらはすことになる。

年少組ではかゝる製作物も極めて簡單で、たゞ自由畫を切り取つて立てる位の程度のものであるが、こんな製作にもなれて度々くりかへしてゐる間には追々に立體的の部分も多くなり、猿の家、或は柿の木などその製作も複雑になつてくる。製作するものが複雑になるにつれ仕事の分量も多くなり仕事をする回数も多くなつてきて何度にも互つて連續してする様にもなつてくる。

この立繪の一例として桃太郎さんをあげておく。

桃太郎、犬、猿、雉、其他草木の類なきを畫かせるのであるが、切り取るのに簡單であるさいふのを本體として参考に一場面の材料をあげておく。

色は任意にぬらしてよいのであるが指導する方であらかじめ色をつけたものを見せてぬらせる事も一つの方法である。

九月號から引きつゞき手技につき、いさゝか考へるころを述べてきたのであるがこれを要するに、幼稚園の手技製作は幼児の生活の中に充分に入つてゐなければならぬといふ事がある。その要諦である。幼稚園の手技はごきまでも幼児たちの遊びの中に作られ、遊びの爲に作るのである。

ある特種の技術を教へ、練習させ、模倣させるのではないのである。この意味で出来上つた結果よりもむしろその製作に對する興味を誘導するところに我々の力點をおかなくてはならない。

この製作に對する幼児たちの興味を尊重する點を考慮して手技の材料を選択し、その方法を考慮してごきまでも幼児本意につくるものであつてほしいものである。

直接購讀のお願い

最近二三ヶ月前から、本誌は取次店を経て販賣をしないことになりましたから、今迄取次店から御購讀下さつてゐた方々は、是非、本會へ直接御申込み下さい。御申込みには、振替を御利用、前金にて御申込み下さる様御願ひ致します。

(日本幼稚園協會事務係り)

豊田英雄女史を悼む

我國最初の幼稚園保姆として、斯界の至寶であつた豊田英雄女史は、今十二月一日、九十七歳の高齡を以て、水戸市の自邸に於て逝去せられました。哀悼にたえませぬ。女史は明治九年、東京女子高等師範學校の前身たる東京女子師範學校の附屬幼稚園の創設と共に、その保姆として任ぜられ、我國幼稚園教育開拓の勞に當られたのであります。又、明治十二年には、本官のまゝ鹿兒島に出張を命ぜられ、幼稚園の開設に當られました。今日と異り、幼稚園のことの何等備つてゐなかつたその當時、一切の研究、工夫、創作、如何に御骨の折れたことかと思ふのでありますが、女史は實によく、その事につくされました。女史の創作の唱歌が今日尙ほ世に存してゐるのを見ても、女史の幼児教育に對する才幹と努力とを想ふのであります。

晩年は、水戸の自邸に、親愛なる御家族の間に、靜に天壽を養ふてゐられました。常に矍鑠として、御老齡ともおもへぬお元氣でありました。一昨年冬、茨城縣保育會主催で女史の御慰安會が催された時など、一同の爲にいろ／＼懷談を下され、力強いお聲で御自作の唱歌を唱つて下さつたことでした。

今、女史を失ふ。眞に至寶を失ふた感であります。御天壽と、今日の我國の幼稚園の發達とは、せめてもの慰めとして女史の御靈前にぬかづき得るところであります。

尙、女史のことに就ては、本誌の第四十卷第二號第二十八卷第十一、第十二號に詳かに掲載致したことがあります。想ひ出として附記して置きます。

(倉橋惣三記)